

あとがき

本号（通巻 97 号）の編集委員会の翌週には研究室の引っ越しをすることになっている。荷造りの準備を始めるべく持ち物を見直していると、手元には通巻 80 号からの核データニュースが残っていた。17 冊を数えるとなるとかなりのボリュームがあるものである。これまで通り年 3 回のペースで発行を重ねると、核データニュースはちょうど 1 年後に通巻 100 号に到達することになる。

最近ワークショップや会議が開催される機会が多いせいか、編集委員会でもつい安易に原稿依頼の対象に会議報告を挙げがちになってしまい、「会議報告に偏る傾向になりますね」と感想を洩らしつつ、作業を進めていることがよくある。100 号の節目が近づいているこの機会に、本誌の役割を改めて考えてみたいと思っている。

出向のためにしばらく活動を休まれていた前編集長の中川庸雄氏が復帰されるとのことである。編集委員にとって心強いニュースであった。

高田 弘

核データ編集委員会

柴田 恵一（委員長、原研）、井頭 政之（東工大）、岩本 修（原研）、
喜多尾 憲助（データ工学）、高田 弘（原研）、長谷川 明（原研）、
吉田 正（武蔵工大）

